



(左から右)ヨハネス・クナップ、エドアルト・フィッシャー、ラルフ・ヨーザー

# 信念を貫いて

オーストリアの屈指の紙器製造会社がなぜマンローランド・シートフェッドの技術に投資を続けるのか？

## ニック・クームズ

マンローランド・シートフェッドとのビジネスにおける良好な関係は、60年前、今では厚紙市場屈指の企業であるオフセットドルツカライ・シュヴァルツァッハ社(以下ODS社)の、設立時にさかのぼる。だが、一方が財政破綻した場合、そのような歴史だけではお互い取引を継続できることにはならない。5年前、マンローランドが解体し、シートフェッド部門が固定資産ごとラングレー・ホールディングスに買い取られたとき、マンローランドは、スイス国境に近いオーストリアのフォラルルベルグ州に52,000平方メートルの近代的な工場と350名の社員を持つODS社に、ハイスペックな3台の枚葉印刷機を販売、設置した。

現在、ODS社はマンローランドの中型機であるR700を6台所有し、また

R200を社内のオペレータートレーニングセンターに設置している。エドアルト・フィッシャー社長はこう話した。「弊社は高い品質と一歩進んだ厚紙パッケージで評判を積み上げてきました。そのためには、弊社が最新のトレンドを維持していることと、需要の変化に素早く対応する能力が不可欠でした。印刷に関する限り、私たちは常にマンローランドの印刷機に信頼をおき、一貫してお客様の要求を満たしてきました。そしてそれは、1960年代から今に至るまでかわっておりません。」

食品、菓子類、化粧品など、多岐に渡る国際的に著名なメーカー各社の仕事を請け負うODS社は、大量生産の産業用紙容器であろうと、少量の高級な手仕上げのパッケージであろうと、メーカーのブランド戦略に強力な役割を

## エボリューションの成功

500ユニットが世界中に納入されている。それは厚紙の会社に初めて導入されたのだが、マンローランド・オーストリアのキーアカウントマネージャーのトーマス・プレヒンガー曰く、「もしラングレイ傘下の5年間に納入した3台の印刷機に、技術的な評価と今後も継続するという確約がなかったら、どうなったかわかりません！これは世界中に10,000社以上ある、私たちのすべてのユーザー企業への明確なメッセージです。」なぜエボリューションを選択したのかを尋ねると、エドアルト・フィッシャーは「弊社では2015年に生産能力を上げる必要性がありましたが、その時にマンローランドでエボリューションが開発中だということを知ったからです。

オッフェンバッハの工場に行き、弊社の多岐にわたる既存の仕事の一連のテストをさせていただいたのですが、新しい機械には、現有R700をはるかに超えた改良点が見られ、私たちは満足しました。それは弊社のお客様が求める新たな品質と生産性に合致するものでした。私たちの期待値に完全に沿うもので、うれしく思いました。」とコメントした。

インラインインスペクター、インラインカラーパイロット、インラインソーターを搭載したODS社の新しいR706エボリューションは、フィッシャーによると「即戦力」とのことだ。そして導入以来、日々、高品質で高速生産を続けている。「エボリューションを信用して投資した理由は技術ばかりではありません。インソルベンシーはショッキングでしたが、すぐにラングレイの再生プログラムが機能していると理解しました。そして早い段階から打ち出されたサービスサポートの継続が不可欠でした。」

1913年にドルンビルン付近で商業および出版印刷会社としてスタートしたODS社は、1980年代後半に厚紙に注力するようになり、今では国際協力のネットワークの一員となっている。現在グループは、商業印刷や広告印刷物を生産する3つの会社を含んでいる。オーストリアのブワドルツカライ社、ドイツのネルプラストティーフツィエテフニック社、ルーマニアのトランシルバニアパック&プリント社で、従業員は合わせて275名ほどだ。ダトスブランドワーク社は、主力のシュヴァルツァッハ工場の近くにある社員5名の小さな会社だが、印刷データのプロジェクト管理ツールに関する専



自動化された物流が継続操作を可能にする

果たしていることを誇りに思っている。ODS社におけるすべての仕事を貫いている方針は、「正確で早い納期をいつでも」という考え方をもとした品質だ。ここで鍵となるのが、マンローランド印刷機への信頼とパフォーマンスの高さだった。ODS社は、印刷ユニット×53、コーター×8、そしてインラインフォイラー×1を所有し、R700印刷機から最高のパフォーマンスを引き出す方法を知っている。ODS社はR707(1/6)とR708(1/7)の、多色刷りの反転機2台を所有し、どちら

もコーターと延長デリバリーがついている。またストレートのR706LTTLを所有し、ダブルコーターとデリバリーにUV乾燥装置がついている。すべてラングレイ以前のものだ。興味深いのは、マンローランド再生直後にR707HSを2台導入していることだ。一台はUV機で、もう一台には油性・UV兼用のインラインフォイラーが搭載されている。最新の導入機は、2015年、マンローランドが成功を収めたR700エボリューションのシリーズだ。今ではすでに

## エボリューションの成功



最新のR700エボリューションのデリバリー部



R707HSに搭載されたインラインフォイラー



門の会社だ。

ここに至るまでの節目としては、1956年にオフセット印刷に切り替え、1968年に現在の場所に移転したこと。また、1994年にISOに認定されたこと。それ以来ODS社は多数の国際的な賞を受賞している。賞状や認定書は、同社の品質を信頼に足るものと保証する。その中にはエコや環境関係のHACCP、BRC/IoP、FSC/PEFC、FDA、ÖKOPROFITなどがある。気候変動対策については、設備投資によって排出が避けられない炭素を転移させる「カーボン・ニュートラル」方針も実施している。

品質という信念がODS社の深部を貫いている。商品アピールもでき保護もできる、形と機能をうまく組み合わせた紙器表面加工や開封に工夫がされたメカニズムなどを得意とする。たとえば丸い箱に入ったソフトチーズで、ふたはぴったり閉まり、棚に置かれると非常に目立つような、質の高い食品のパッケージなどがある。

ODS社は、高級菓子の包装の場合、チョコレートに油分が含まれていることによって起こりうる問題にも気を配

っている。油分はインキのにおい移りの原因となる場合があり、印刷後のパッケージは絶対に商品の香や味に影響をおよぼしてはならないのだ。これはロビンソンテスト(DIN EN 1230-2)で検査されるが、国際食品基準(IFS)に従い、最新のにおい移りのしないインキを菓子類全般の包装に使用している。ほかには、工場出荷の際に、キズや微生物の混入がないかなどの検査をしている。製造にかかわる機械についても同様の検査が行われる。

2013年、ODS社は太陽光発電システムを作動させた。これは年間400,000キロワットを作り出すことが可能だ。その1年後、エネルギー管理の世界基準であるISO50001の認証を得た。

「ここでしている作業はすべて高品質

を目指しています。私たちは2015年、「カートンオブザイヤー(ECMA)」を受賞したことを大変うれしく思っています。それはまさに私たちの活動と社員の努力に報いるものだったからです。」と、エドアルト・フィッシャーは締めくくった。ODS社は歴史ある印刷機メーカーであるマンローランド社の技術に投資をし続けている。それは同社の品質至上主義の考えを現しているのだ。



最新のR700エボリューションのデリバリー部